

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 7 日現在

機関番号：34315

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2012～2015

課題番号：24720402

研究課題名(和文) 中古品と非正規品の越境交易にみる現代アフリカの消費文化に関する研究

研究課題名(英文) A study on the Contemporary Consumption Culture in Africa: With Special Reference to the Cross-border Trading of Secondhand Products and Copy Products

## 研究代表者

小川 さやか(Ogawa, Sayaka)

立命館大学・先端総合学術研究科・准教授

研究者番号：40582656

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,900,000円

研究成果の概要(和文)：中古品と非正規品(コピー商品、偽物)は、日本をふくむ先進諸国の消費文化(使い捨て文化や、イメージや記号の消費にもとづく消費文化、模倣やコピーを規制する文化)とふかく関連して生み出された特別な商品である。本研究では、(1)中古品と非正規品のそれぞれの商品が、欧米やアジア諸国で廃棄/生産され、アフリカの消費者に届けられるまでの経済システム、(2)中古品と非正規品が欧米/アジア諸国とアフリカ(諸国間)を動く過程で付与される価値、(3)アフリカの消費者による中古品と非正規品の購買行動とアフリカの消費文化について明らかにした。それを通じて西欧中心的な消費文化論をアフリカの商人や消費者の視点から再考した。

研究成果の概要(英文)：The second-hand products and copy products (counterfeit, knockoff) are commodities that generated from our consumption culture: disposable culture, consumption of image and symbol, and so on. Second-hand products that is consumed and discarded in developed countries is imported to African countries under the pretext of "recycling" or "contributing to the society," while having a devastating impact on the local industry in African countries. At the beginning of the twenty-first century in Africa, copy and counterfeit from China has started to dominate the African market. These commodities generate "another disposable culture", while those commodities enable African people consume the latest fashion and technologies. This study uncovered the multi-layered consumption culture by investigating the distribution system and changing values of the secondhand products and copy/counterfeit products from disposal/production in developed countries/China to consumption in Africa.

研究分野：文化人類学

キーワード：中古品 非正規品 コピー商品 アフリカ 中国 越境交易 消費文化 モノ

## 1. 研究開始当初の背景

先進諸国において大量生産・廃棄型の消費文化「使い捨て文化」から排出されるゴミや不用品は、「エコ・リサイクル」「支援・社会貢献」といった価値と結びつくことで、贈り物や商品となり、アフリカをはじめとする途上国に輸出される。この中古品や輸入国の地域産業の育成に壊滅的な打撃を与え、それにより発展途上国の従属的な地位を強化しながら、貧しい人々の必需品として浸透し、先進国を中心とする消費文化を再生産してきた。

世界最大の中古品輸入市場であるアフリカでは長らく、衣類から家電製品、自動車、おもちゃに至るまで消費生活の大部分を中古品が占めてきた。しかし今世紀に入ってから、中国・アジア製の安価で粗悪な非正規品が急速に流入し、中古品とアフリカ市場を二分するようになった。この非正規品は一面では、記号やイメージの消費に特徴づけられる近代消費文化を反映したものである。非正規品は、アフリカの消費者に先進諸国の消費者と同じ速度で最先端の流行・技術を消費することを可能とする一方で、「貧者による使い捨て文化」をも生み出している。

これらの商品に関する従来研究は、近代の消費システムに対する批判的な視座を提示するものが中心を占めてきた。中古品に関する研究では、アパデュライの「モノの社会生活」(Appadurai 1986)を応用して、中古品流通におけるモノの価値の転換を示す研究が散見される(cf. Hansen 2000)。非正規品に関する研究では、中国の特有の企業家精神に着目し、山寨文化といったコピーやゲリラ文化の特徴を論じる議論がある。これらの研究は、アフリカの従属的地位の再生産にかかる「エコ/支援とビジネスの共犯関係」や「コピー行為に内在する文化的/経済的価値」といった重要な論点を提示し、西欧起源の消費文化に浸かる近代社会の危うさと特権(特許)主義的な消費文化の支配形態を看破した。しかし、アフリカの人々もこのような消費文化に戯れつつ、脱西欧中心主義的な新しい消費文化を想像/創造していくための独自の実践を行っている。

## 2. 研究の目的

本研究の目的は、先進諸国や新興国で廃棄/創造され、アフリカ諸国に輸出されている中古品と非正規品が同諸国間を越境交易で循環し消費される過程と、この過程(=モノの社会的履歴)における二つの商品の価値変化の実態を現地調査を通じて明らかにすることにある。また、そこから従来の西欧中心的な消費文化論を、「廃棄から再消費」あるいは「コピーから消費」の世界から再考し、文化人類学の立場から新たな消費文化論を構想することを目指した。

## 3. 研究の方法

中古品と非正規品が、先進諸国や新興国で廃棄/生産され、越境交易を通じて東アフリカ諸国内を循環し、特定の消費者に再利用/消費されるまでの一連のプロセスと、そこでモノの価値の変化を明らかにした。東アフリカ諸国間の交易の調査拠点をタンザニアのムワンザ市に設定し、ムワンザ市とケニア、ウガンダ、ルワンダ、ブルンジの主要都市を移動する商品に同行し、越境や交換、売買、消費における中古品・非正規品の価値の変化を順次調査した。

具体的には以下の3つの課題に取り組んだ。  
(1) 中古品と非正規品の流通システムとそれを支える価値の解明

文献研究を通じて、中古品と非正規品の収集/生産から選別、輸出までのしくみを明らかにし、それぞれの流通段階でどのような価値が付与されるのかを解明する。

(2) 東アフリカ諸国間の交易システムとそれを通じたモノの価値の変化の解明

タンザニアを拠点として、ケニア、ウガンダ、ルワンダ、ブルンジ間の各交易ルートを動く中古品/非正規品を追跡し、それらの商品の価値が越境や売買、消費によりどのように変化していくのかを、参与観察と聞き取り調査から解明する。

(3) モノの価値の転換にかかる創造/想像力

中古品や非正規品の価値を新しく創造していく実践にかかわる、ナショナリティやエスニシティ、アフリカ人/中国人のイメージがどこから生まれているのか、それはいかなる想像力なのかを、植民地期から現在までの政治文化的な関係性とモノのエージェンシーに注目して解明する。

## 4. 研究成果

(1) 中古衣料品の価値変化にみる東アフリカ諸国間の流通システム

中古衣料品の流通システムにおける中古衣料品の価値変化を、アパデュライの「モノの社会生活」を援用して考察し、東アフリカ諸国間交易の意義を明らかにした。

先進諸国の消費者が商品として購入した衣類はまずゴミや不用品となり、つぎに寄贈品となり、先進諸国内のリサイクル市場を通じて再び商品となる。こうして商品となった中古衣料品は先進諸国の消費者が最初に衣類を購入した時の商品とは異なる価値を持つ。衣類はいったん不用品や寄贈品となることにより、その多義的な価値を担保していた衣類の機能性やデザイン性・ファッション性ではなく「重量」によって梱包された「貧しい人々に必要なモノ」と変化するのである。しかしアフリカの人々は先進諸国の人々が

古着をリサイクルする際の価値 「資源の有効利用」や「社会貢献」あるいは「衣類の必要性」によって古着を消費するわけではない。

先進諸国からタンザニアに輸入された梱には、ほぼ新品の最新の流行品から何十年も筆筒の肥やしになっていた衣類まで多様な衣類が混入している。先進諸国から「貧しい人々に必要なモノ」として輸出された梱の中身は、タンザニアの商人たちにより、現地の流行や品質、地域ごとの需要や購買力の違いに応じてグレードAからCの三つに分類され、システムティックに流通していた。

近年、東アフリカ諸国間の経済連携の進展を背景とした中古品の輸入規制と、中国・アジア製の廉価な新品衣料品、特に偽物やコピー製品の流入により、中古衣料品の価値が変化した。品質もデザインも良いグレードAの一部は本物のブランド品を含む「オリジナル」として再評価され需要が格段に伸び、また新品衣料品とグレードAの購入量が増えたことによりグレードCも日常的な節約品として価値が見直され需要がわずかに伸びた。しかしグレードBに分類された古着は品質面では新品衣料品と同等で、流行面では明らかに劣りしたため、市場を奪われる結果となった。グレードBの在庫を抱えることを避けた商人たちは、東アフリカ諸国間の経済連携（関税同盟 共通市場化）を背景とした隣国との交易活性化の波に乗り、東アフリカ諸国間交易に参入した。彼らは、東アフリカ諸国間の微細な需要の違いを踏まえて隣国ではグレードBに分類される衣料品のなかから自国の市場でグレードAとして販売可能な商品を仕入れるという基本戦略をとっている。

このプロセスをモノの価値変化に着目すると、この東アフリカ間の越境交易とは、隣国の商人が国内で価値を失ったグレードBを需要・嗜好の異なる自国へと持ち込むことにより、グレードA、すなわち「デザイン性」を獲得して人々の必要性和願望に即したモノへとその価値を転換する実践であるといえる。以上から、先進諸国の人々の「不要品」のすべてを「誰か」にとって価値のあるモノへと変えていく実践は、先進諸国のリサイクル市場では完結せず、アフリカの零細商人による越境交易によって可能となっていることを指摘した。

この成果は複数の国際学会にて発表し、リサイクルやエコ、人道支援の文脈で論じられがちな中古衣料品の供給システムを、アフリカの消費者や商人の視座から再検討する必要性をわかりやすく説明した点でたかく評価された。

## (2) 中古衣料品とアジア製新品衣料品の流通（供給）システムの違いとそれに基づくタンザニアの購買行動

中古衣料品が基本的に先進諸国主導で供給システムが形成されているのとは異なり、

新品の衣料品の多くは、アフリカ系商人がアジア諸国（中国やタイ、インドネシア等）に自ら渡航して一枚一枚選んできた品や現地の工場に注文生産したモノ、タンザニア商人がアジア諸国に在住するアフリカ系の代理人に依頼してアジア諸国から輸入したモノである。それゆえ、アジア製衣料品は、アフリカ各地のその時々を反映しており、デザインが良いという特長をもつ。しかしアフリカ市場で販売可能な価格には制限があることから、その多くが偽ブランド品やコピー商品、パクリ品を含む粗悪品である。

本研究では、タンザニアの消費者200名に対して中古衣料品とアジア製衣料品の購買行動を聞き取り調査し、それを供給システムの違いに照らして比較検討した。その結果、基本的には長く使用し流行が変わりにくい製品（ジーンズなど）については、中古衣料品の需要が高く、流行に応じて買い替える比較的安価な製品については新品の衣料品の需要が高いことが示された。

また、タンザニアでは、華美な消費が嫉妬や妬み、親族や友人からの無心を引き起こすことから、「みせびらかし消費」の効用が低く、敢えて中古衣料品を購入する場合があることが示された。さらに都市経済の7割弱を占めるインフォーマル経済従事者は収入が不安定で貯蓄が困難なため、「延期消費（消費の先延ばし）」が一般的ではないことも明らかとなった。消費を計画的に行うことが困難であることは、品質の良く高価な中古衣料品を購入したいと考えていても、その時々で購入可能な安価な新品衣料品（コピー商品）を選択することにつながる。他方で、彼らは収入が他者からの無心などによりなくなることを防ぐために、普段よりも多くの手取りがあったときには、現金をできるだけすぐにモノに替えようとするため、「偶発的な消費」も多い。わずかにロゴや商標、デザインをたがえてハイスピードで供給されるコピー商品は、「騙し」が目的ではなく、消費者とモノとの一期一会を高めて、偶発的な消費を促進することに対応したものであった。

以上を踏まえて、東アフリカ諸国における中古品と非正規品の消費による「もう一つの使い捨て文化」が、先進諸国の使い捨て文化とは異なる論理で動いていることを論じた。このアフリカ市場における中古品と中国アジア製品をめぐる購買行動については、アジア経済研究所から他の中古品・リユース品にかかわる研究者との共同研究に発展した。また一般社会からの関心も高く、「Wedge」誌上でエッセイを掲載したところ、大きな反響が得られた。

## (3) 非正規品の交易システムとアフリカ系商人・消費者にとってのモノの道義的合法性

今世紀に入り、アフリカをはじめとした発展途上国と中国との草の根の交易が急速に

活発化している。中国に渡航した零細な交易人たちは、知的財産権や入管法、商法等に抵触しながら模造品やコピー商品、海賊版商品を含む様々な商品を買いつけ、スーツケースやコンテナにより母国へと輸送している。近年では、これらのトランスナショナルな取引に注目する人類学的な研究が台頭している。

これらの人類学的研究の多くは、独立した国家経済を暗黙的に仮定し、各国の経済統計上のフォーマル経済の残余として設定された「インフォーマル経済」という用語では、グローバルな取引を十分に説明できないとして、これを回避する。たとえば、ゴードン・マッシュューズとグスタヴォ・リベイロ、カルロス・ヴェガが編集した論集は、このトランスナショナルな取引を「下からのグローバル化」や「非覇権的な世界システム」と呼称し、先進諸国の企業や多国籍企業が先導する主流派のグローバル経済システムと対比することで、この取引の勃興がいかなる新しい経済秩序を形成しつつあるかを論じたものである (Mathews, Ribeiro and Vega eds. 2012)。

論集の寄稿者たちは、この経済が「より徹底的に新自由主義化」した経済秩序を形成しつつあることを主張するとともに、この経済はより人間的な新自由主義の論理で動いており、主流派の経済システムが生み出している問題や不公正を解決する場となっていることを主張している。彼らが同じ新自由主義に胚胎しつつ、下からのグローバル化を「より人間的な新自由主義」で主流派経済の問題を解決する場であるとみなす根拠は、従来の IS 研究でも頻繁に議論されてきた、「法的な違法性 illegal」と「道義的な違法性 illicit / 合法性 licit」の関係にある。

インフォーマル経済の領域には、法的には違法 illegal だが、この経済に従事する当事者のあいだでは道義的には許されたり認められる行為とそうではない行為がある。知的財産権や商法、入管法などに違反する模造品やコピー商品の生産や流通も、同じ観点で論じられる対象である (Hannessey 2012; Lin 2011; Walls & Qiu 2012 など)。そこでは、(1) 模造品やコピー商品は、それがなかったら不可能であった貧しい人びとが最新の技術やデザインにアクセスすることを可能にする、(2) 模倣や海賊行為は、様々な制約のある発展途上国で草の根のイノベーションを引き起こし、経済を離床させる原動力となりうる、(3) 模造品やコピー商品の生産から流通・消費に関わる人びとはそれが偽物やコピーであることを隠さずに取引しているので、彼らのあいだでは道義的な違反は成立していない、などの理由を挙げて、部分的にこの経済を擁護する意見が散見される。だが、これらの議論における模造品やコピー商品の道義性とは、実際にそれを生産・流通・購入している人びとの主張というより、この商品のグローバルな循環を主流派経済との関係でとらえた時に定位されるもので

ある。

そこで本研究では、タンザニアの消費者 (計 265 名) がコピー商品や模造品、偽造品を数多くふくむ中国製品をどのように評価しているのかを、モノのイメージと中国人 (とアフリカ人との関係性) のイメージとの関係に着目して考察した。

タンザニアの消費者は、たしかに中国製のコピー商品や模造品はグローバル経済の中心地の流行や便利さを不十分なりにも獲得するために必要なモノではあるとみなしていた。ただし彼らは「安いだから仕方がない」という論理を受容するわけではなく、購買力が不足しているからこそ、「買い替え」「耐久性」に関連する、コピーや偽物の品質や機能の悪さに強い関心を持っていた。

また流行遅れの中古品でなければ、本当に良い品は手に入れないと知っている消費者にとって、コピーや偽物は、ブランドに対する欲望を解決する役割を担うモノではなく、ロゴも彼 / 彼女の地位や嗜好性 アイデンティティ を示す記号ではなかった。ロゴは、その商品がコピーや偽物であるかもしれないと警告し、それゆえ低品質で機能の悪いことを予測させる記号として流通していた。だが実際には、研究成果 (2) で詳述した通り、延期消費が困難な消費者は、その時々のお金銭的な都合で本意 / 衝動的にコピーや偽物を購入することになる。そのため、中国製のコピーや偽物は、これらを製造する中国人に対する否定的イメージを醸成する結果となっていた。

興味ぶかい点は、タンザニアのインフォーマル経済でも似通った偽造やコピーが展開しているが、それは一種の知恵や「プリコラージュ」として評価されていることである。なぜタンザニアのインフォーマル経済における偽造やコピーが道義的に許され、中国人による同じ行為が問題とされるかは、インフォーマル経済における公正さが「顔の見える範囲」を超えないことによっていた。法や条例を無視する路上商人 偽物売りつける商人 が多くの住民にとって「犯罪者」でない理由は、単に彼らが安い商品を買っているからではなく、彼らも自分と同じ普通の生活者であるという想像とそれに基づく彼らの生計実践に対する理解・共感に依拠している。この想像と共感が及ばなければ、たとえ実態は同じ「インフォーマル経済」であったとしても、貧困ビジネスを推進する「上からのグローバル化」の側に区分されることだっている。

以上から、下からのグローバル化は、各地のインフォーマル経済の共通性を見つけ、主流派経済との違いを析出できる研究者にとっては実態として存在していても、以上で述べたように内部の成員にとってはごく狭い範囲で断絶していることを指摘した。この成果は、従来の下からのグローバル化論が、上からのグローバル化論との対比で形成され

ており、下からのグローバル化内部の差異が十分に検討されてこなかったことを実証した点で、ローエンドなグローバリゼーションを論じる研究に貢献するものである。

(4) 非正規品の取引システムにみる特有の時間的な世界・生活の論理

中国で生産された非正規品がアフリカの消費者によって消費されるまでの過程には、均質的・直線的な未来を企図せず、いま可能な行為に賭けるという特有の時間に対する態度があることが示唆された。そこで、『小説宝石』(光文社)誌上で、「Living for todayの人類学」と題した連載を12回にわたって行い、タンザニアの都市住民の日々の生計戦略における「多様化」と「転職」にかかわる戦略から、「試しにやってみて、失敗したら転職する」を基本とする模造品の生産・取引に共通したダイナミズム、模造品の購買行動を特徴づける「非計画的な消費」までをつないで論じ、さらにそこから私たちの「未来優位・生産主義的な」生き方や経済システムを考え直すという試みを行った。これは、研究成果の社会的な還元として位置づけられる。

<引用文献>

- Appadurai, A. ed. 1986. *The Social Life of Things: Commodities in Cultural Perspective*. Cambridge: Cambridge University Press.
- Hansen, K. T. 2000. *Salaula: The World of Secondhand Clothing Trade*. Chicago: Chicago University Press.
- Hennessey, W. 2012 “Deconstructing Shanzhai-China Copycat Counterculture: Catch Me If You Can” *Cambell Law Review*, Vol. 34, 3: 609-660.
- Lin, Y-C, J. 2011 *Fake Stuff: China and the Rise of Counterfeit Goods*. New York, Routledge.
- Mathews, G., G.L. Ribeiro and C. A. Vega (eds.) 2012 *Globalization from Below: The World's Other Economy*. London and New York: Routledge.
- Walls, C. and J. L. Qiu 2012 “Shanzhaiji and the Transformation of the Local Mediascape in Shenzhen”. in W. Sun and J. Chio (eds.) *Mapping Media in China: Region, Province, Locality*. London and New York: Routledge. pp.109-125.

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 28 件)

小川さやか、笑いにあふれた世界と窮地  
タンザニアの零細商人を事例として、  
立命館大学言語文化研究、査読無、27 卷

4号、2016、87 - 102 .

小川さやか、トランスナショナルなイン  
フォーマル取引の道義的合法性をめぐつ  
て、社会人類学年報、査読有、41 卷、2015、  
49 - 70.

小川さやか、Living for today の人類学  
契約ではなく信頼で動く経済、小説宝石、  
査読無、9 卷、2015、100 - 107

小川さやか、Living for today の人類学  
中国のパクリ文化、その経済戦略、小説  
宝石、査読無、8 卷、2015、69 - 75

小川さやか、もう一つの使い捨て文化、  
アステイオン、査読有、77 卷、2012、116  
- 133

[学会発表](計 27 件)

Ogawa Sayaka、Re-globalization through  
the Trans-border Trading of  
Second-hand Clothing in East Africa,  
The 4<sup>th</sup> Seminar of African Studies (招  
待講演)、2016 年 3 月 24 日、Hankuk  
University of Foreign Studies、Seoul  
(South Korea).

Ogawa Sayaka、The Unionization of  
Street Traders: the Riot and the  
Politics of the Street in Tanzania,  
18<sup>th</sup> The World Congress of  
International Union of Anthropology  
and Ethnology、2014 年 5 月 16 日、幕張  
メッセ(千葉県千葉市)

小川さやか、草の根のグローバル化のダ  
イナミズム 東アフリカ商人の模造品交  
易を事例に、日本文化人類学会公開シン  
ポジウム、2013 年 11 月 17 日、京都大学  
(京都府京都市)

Ogawa Sayaka、Trust in being Ujanja:  
The Business Practices and Creeds  
among Urban Petty Traders in Tanzania,  
17<sup>th</sup> World Congress of International  
Union of Anthropological and  
Ethnological Science、2013 年 8 月 6 日、  
Manchester University,  
Manchester(England)

Ogawa Sayaka、Trans-border Trade of  
Second-hand Clothing in East Africa,  
World Economic History Congress、2012  
年 7 月 11 日、Stellenbosch University,  
Stellenbosch(South Africa)

[図書](計 4 件)

高橋基樹、大山修一、池野旬、荒木美奈子、上田元、西浦昭雄、福西隆弘、小川さやか、八塚春名、山田昌子、長谷川将士、京都大学学術出版会、アフリカの潜在力 3 開発と共生のはざままで 国家と市場の変動を生きる、2016、430 (分担執筆 233 - 273) .

中谷文美、宇田川妙子、今堀恵美、松前もゆる、工藤正子、木曾恵子、丸山淳子、小川さやか、木本喜美子、ジェームス・ロバーソン、安良田麻里子、宮治美江子、石川登、嶋田ミカ、鈴木七美、世界思想社、仕事の人類学 労働中心主義の向こうへ、2016、318 (分担執筆 177 - 203) .

立岩真也、村上潔、西成彦、小川さやか、渡辺克典、松原洋子、斉藤龍一郎、藤原信行、長瀬修、生活書院、生存学の企て 障老病異と暮らす世界へ、2016、288 (分担執筆 84 - 95、96 - 110) .

小島道一、福西隆弘、小川さやか、佐々木創、浅妻裕、福田友子、アジア経済研究所、国際リユースと発展途上国 越境する中古品取引、2014、286 (分担執筆 36 - 61) .

〔産業財産権〕

出願状況 (計 0 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

取得状況 (計 0 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年月日：  
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

小川さやか (OGAWA, Sayaka)  
立命館大学・先端総合学術研究科・准教授  
研究者番号：4 0 5 8 2 6 5 6